社会教育施設「公民館」における学習活動の実際

足利市教育委員会・社会教育課　清 水 邦 康
唯 木 充 夫
植 竹 民 司

1. 公民館の性格

生涯教育の理念が系統的に示されてから久しい。わが国においても，その理論研究を経ながら，すでにその理念にもとずいて，都道府県，市町村レベルで，各地域での実践がすすめられている。

本市においても，昭和56年に「足利市の教育目標」が設定され，生涯教育推進の指針となって，各教育機能で，実践活動が行われている。

生涯教育の考え方は，社会教育に対し，「すべての人びとが，いつでも，どこでも，何でも学ぶことができる」という，その目ざすものを，再び認識するうえで，大きな働きとなっていることは確かである。社会教育が，生涯教育観にねざして，そのねらいを明確にもつとするならば，それはまさしく，「いつでも，どこでも，何でも学べる」ことを"社会教育機能"の中で，具体的に保障してゆくことにほかならない。

社会教育の一つの場として，ここで，公民館をとりあげることとする。

いうまでもなく，公民館は，社会教育施設の一つであり，その中でも中心的な位置をしめしているものである。

公民館活動を理解するための一つの指針として，「社会教育法」における法的な位置づけをみてみたい。

社会教育法（昭和24年6月10日，法律第207号）

第5章　公民館

（目的）

第20条　公民館は，市町村その他一定区域内の住民のために，実際生活に即する教育，学術及び文化に関する各種の事業を行い，もって住民の教養の向上，健康の増進，情操の純化を図り，生活文化の振興，社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

（公民館の事業）

第21条　公民館は，第20条の目的達成のために，おおむね，つぎの事業を行う。但し，この法律及び他の法令によって禁じられたものは，この限りでない。

1. 青年学級を実施すること。
2. 定期講座を開設すること。
3. 討論会・講習会・講演会・実習会・展示会等を開催すること。
4. 図書・記録・模型・資料等を備え，その利用を図ること。
5. 体育・レクリェーション等に関する集会を開催すること。

6. 各種の団体，機関等の連絡を図ること。

7. その施設を住民の集会その他の公共的利用に供すること。

以上，社会教育法の各条からもご理解いただけるように，公民館は，社会教育における主要施設として，人びとの学習活動，芸術文化活動，体育活動，集会活動などさまざまな活動に対応するべきものとして位置づけられている。

公民館活動は，市民が主体的に，地方文化を盛んにし，自主的かつ民主的な住民活動を促進し，市民の創造性をかん養することを援助するものとして，大きな意義を見出すことができるのである。

2. 足利市の公民館

現在，本市においては，16公民館(他1分館)がある。うち15館は，市内各地区に設置され，地域の人びとに直接的に接しながら，社会教育実践活動を行っている。1館，織姫公民館は，他15館での事業のほか，より広域的な，全市域を対象とした事業を行っている。さらに，昭和60年末には，(仮称)東部公民館の開館が予定され，市中央部における社会教育活動の一層の充実をめざしているところである。

また，同和問題解決のための教育を実践・推進する場として，5集会所が設置され，それぞれの管内公民館で，その運営・管理にあたっている。

3. 公民館における学習活動

公民館では，地域の人びとによる学習活動，集会活動，地域づくり活動など，さまざまな活動が日常的に行われているが，なかでも，公民館による学習機会提供は，公民館活動の中核となっているといえよう。

学習機会の提供は，学級・講座の開設という形をとって行われる。主なものは以下のとおりである。

- 子どもふるさと教室―小学3～6年生対象に「ふるさと足利」を知り，郷土愛を育てるためさまざまな学習をする。（織姫公民館）
- 明日の親となるための学級―結婚予定者を主な対象とし，家庭生活を充実させるための知識を身につけ幸せな家庭づくりのための学習をする。（織姫公民館）
- 青年教養大学 ――― 青年を対象として，地域社会・職場のリーダーとしての資質を身につけるための学習をする。（織姫公民館）
- 夏期市民大学 ――― 地域社会の一員として，郷土への理解を深めるとともに，成人として必要な教養を身につけるための学習をする。（織姫公民館）
- 市民学校 ――― 余暇時間の有効な活用をはかり，教養を高めるとともに，趣味生活の充実をめざし学習をする。（織姫公民館他）
- 婦人学級 ――― 現代婦人として必要な知識・教養を修得し，生活技術向上のための学習をする。（各公民館）

◦高令者学級――――― 高令者の生きがい，社会生活での高令者の役割などを学ぶ。(各公民館)
◦家庭教育学級――― 家庭教育の意義と，子どもの健全育成の重要性を認識し，子どもへの家庭教育のあり方を学習する。（各公民館）
◦乳幼児学級――――― 乳幼児の心身の発達と，それに伴う基礎的保育知識を修得し子育てのあり方を学習する。（各公民館）
◦父親学級――――― 父親としての子どもへのかかわりを考え，父親としての家庭教育のあり方を学習する。（各公民館）
◦各種講座――――― 料理・茶華道・手芸・民謡・スポーツ・その他芸術文化・体育活動をとおして余暇活用をはかり，心豊かな生活をおくるための学習をする。（各公民館）

その他，各公民館により，地域の特色を生かしたいろいろな学習機会が提供されている。

公民館における学級・講座のねらいは，市民ひとりひとりの生涯学習のための機会を提供し，「心豊かな人間性」を養い，生涯をとおして自ら学んでいく，という自己教育観の確立をめざしたものであり，究極的には，まさしく「生涯学習者」の育成にある。

4. 学習活動の実際

ここでは，実際に公民館の学級を例に示しながら，学習活動がどのようにすすめられているのかをご紹介したい。

とくに，家庭教育充実のための関連学級―家庭教育学級・父親学級・乳幼児学級につき，それぞれ三重・北郷・織姫の各公民館においての実践例をご紹介する。

〔家庭教育学級の例……三重公民館〕

1. 学級の形態

(1) 学級の名称　三重家庭教育学級
(2) 対　　象　三重小学校児童１～６年生の母親
(3) 開設の趣旨　心身ともに健康な子どもを育てるためには，家庭での子どもへの教育の力によるところが大きい。家庭教育のあり方をさぐり，母親としての子どもへの姿勢を確立する機会として，この学級を開設する。
(4) 開設機関　足利市教育委員会（実施機関…三重公民館）
(5) 開設期間　昭和59年５月１日～11月14日（12回　各回午前10時～12時）
(6) 学習場所　三重公民館

以上が学級形態のアウトラインである。各公民館においては，対象，及び期間などについては若干の差異がみられる。三重家庭教育学級では，対象となる母親の子どもの学年を１～６年と幅広くしているが，異った年令の児童をもつ母親同士がともに学習することにより，相互学習，交流が深まることを意図している。
※昭和59年度受講者……68名

2. 学習計画・内容

(1) 学習目標

- 「子どもと母親」のあり方を考え，成長してゆく子どもに対応した家庭教育のあり方を学ぶことにより，母親の姿勢を確立する。
- 親自身が自ら考え，そして行動するための力を養い，より望ましい親子の姿を追求する。

(2) 「足利市の教育目標」との関連

この学級のめざすものは，「足利市の教育目標」のうち，つぎの目標である。

＜教育目標番号　42＞

子どもの人格の基本となる望ましい性格を育てる。

（達成目標）

- 子どもの行動をとおして主体性を認めてやることができる。

以上の教育目標は，この学級における学習の最も基本的な目標となっている。とりわけ，達成目標は，学習のなかに具体的に「子どもの自主性」「子どもの自立心」「子どもの活動性」を養うために母親はどうしたらよいか……との学習を重点的に組みこむことにより対応することとした。

(3) 学習計画の実際

回	月日	曜	学習主題	学習内容	方法	指導者・助言者
1	5/ 1	火	開級式「子どもと環境」を考える	子どもの成長のうえで，社会環境がどう作用するか。（同和教育として）	講義	教育文化係長 島田秀夫
2	5/22	火	「親の子ばなれ，子の親ばなれ」を考える	親子関係の新しい姿を考えるとともに子どもが親をどうみているかを知る。	講義 話し合い	社教主事 田部井健二
3	6/ 5	火	「子どもの心」を考える（お母さんの心理学）	児童期の心の変化と，親としての対処のあり方（やさしい児童心理学）	講義	指導主事 柿沼　満
4	6/19	火	「子どもの遊び」を考える	子どもたちの遊びの実態と，その遊びのもつ意味。	講義 話し合い	足利YMCA 大村洋永
5	7/10	火	「子どものつよさ自立心」を考える	つよく，たくましく，忍耐づよい，自立心をもった子どもを育てるヒケツ。	映画利用 話し合い	公民館職員
6	9/ 4	火	料理上手になるコツは?	子どものよろこぶ料理づくり（実習）	実習	料理学校長 尾花千恵子
7	9/18	火	「子どもの学校生活」を考える	学校における子どもたちの姿，校長として母親にのぞむこと。	講義	三重小校長 熊本恵一
8	10/16	火	「学習じゅく家庭学習」を考える	学校と，家庭での学習はどうあるべきか，実際の学校における学習	講義 実習	三重小教諭 岩沢　潔
9	10/30	火	「子どもの個性創造力」を考える	個性とは何か，心豊かな創造力をもった子どもにするためにどうしたらよいか。	話し合い	社教主事 小高良夫
10	11/13	火	学習のまとめ 修了式	学習活動の反省　修了パーティー	話し合い	
11	11/14	水	三重小PTA共催 教育特別講演会	「子育てにゆとりを」 母親と子どもの関係は，どうなのか。	講義	社教指導員 岡本まさ子

(4) 学習活動において留意した点

◦参考・補助テキストの利用

学習の効果を高めるため，また自宅での個人学習に対応できるよう補助テキストを使用

「わが家の家庭教育…児童編」　新社会教育研究所刊

◦参考となる資料を配布し，学習の効果がより高まるよう配慮した。

（資料名）

「人を人として大切にするために（同和教育用）」「子どものみ方考え方」「母と子」「父と子」「教育ママを考える」「教育ママいろいろ」「遊びのみ方考え方」「お母さんへの提言」「通信票に一喜一憂するな」「子どものこずかい考」「早く自立を促そう」「家庭学習のあり方させ方」「創造の力」　他

※それぞれの資料とも関係図書より抜すい，編集したもの

(5) そ　の　他

とくに本年度の学級活動の中では，特別活動として，親子でともに参加できる活動を行った。親子のふれ合いをはかり，さらに家族同士の交流ができることをねらいとした。

夏休み親子クッキングスクール	7月25日
家族お月見会（父親学級と合同）	9月18日
親子もちつき大会（　〃　）	12月16日

〔父親学級の例①…北郷公民館〕

1. 学級の形態

(1) 学級の名称　（北中地区）父親学級

(2) 対　　象　北中学校生徒1～3年生の父親

(3) 開設の趣旨　現代における日本型親子関係の特徴は父性の欠如にある，といわれている。日頃の親子の語らい，ふれあい等をとおし，互いの理解を深めるために父親として，子どもが何を見，何を考えているのか。今，父親が家庭教育にかかわりをもって学習し，考え，行動する必要性がある。そこで，「父親の役割」を学ぶ手がかりとして，この学級を開設する。

(4) 開設機関　足利市教育委員会（実施機関…北郷公民館）

(5) 開設期間　昭和59年5月25日～12月5日（8回，原則として，午後7時～9時）

(6) 学習場所　北中学校視聴覚室

学級の主たる形態は上記のとおりである。しかし，各公民館においては，その対象等によって学級開設の趣旨他に若干の差異がみられる。（北中地区）父親学級の場合対象として中学生（1～3年）をもつ父親としている。これは，悩める中学生，問題となっている中学生を生み出す要因の一つに，家庭における父性の欠如がある，と考えたからである。

なお，開設時間については，父親を対象としているので，勤務に関連し時間的に参加しやすいことを前提として設定した。しかしながら，残業等にも関連し，時間的な問題の解決だけでは参加しやすい状況を設定した，とはいえないものがある。そのため後述の，企業に出向いての父親学級(企業内父親学級)開設の必要性もでてきている。

※昭和59年度（北中地区）父親学級受講者…30名

2. 学習計画・内容

(1) 学 習 目 標

家庭教育の意義を理解し，中学生の健全育成の重要性を認識し，父親としての家庭教育へのかかわり方を学ぶ。また，受講者間の交流，情報交換により地域住民としての連帯感の醸成をはかる。

(2) 「足利市の教育目標」との関連

この学級は，「足利市の教育目標」のうち，つぎの教育目標をめざしている。

＜教育目標番号　16＞

地域の集団活動に積極的に参加し，自らの役割を果たす。

（達成目標）

◦近隣の人たちと助け合いながら，心の触れ合いに努める。

◦協力し合って集団生活の向上に努める。

＜教育目標番号　42＞

子どもの人格の基本となる望ましい性格を育てる。

◦子どもの生き方の手本となるような暮らし方ができる。

◦家族は子ども教育について話し合い，方針や方法について共通理解をもつことができる。

◦一家団らんの機会や話し合う場を意図的に設けてやることができる。

(3) 学習計画の実際

回	月日	曜	学 習 主 題	学　習　内　容	方　法	指導者・助言者
1	5/25	金	開級式 父親の役割とその望ましい姿(1)	オリエンテーション，仲間づくり 足利市の教育目標と父親学級	講　義 アドバイス	北中教頭 杉 江 重 男 地区社教振委員長
2	6/15	金	子供の成長と教育 青少年の心理 よい子の育て方教えます(1)	青少年の心理と親のあり方 おとうさん！しつけの悩みありませんか？	講　義 話し合い	こころみ学園長 川 田　昇
3	7/ 6	金	父親の役割とその望ましい姿(2)	家族社会の中における父親としての役割とは	講　義 話し合い	北中教諭 岸　光 一
4	8/ 9	木	みんなで おおいに語ろう	家庭教育における父親の悩みと喜び （盃片手に懇談会） 現代家庭と父親	懇 談 会 (懇親会)	北中校長 時 田　登 北中教諭 岸　光 一 地区社教振委員長

回	月日	曜	学習主題	学習内容	方法	指導者・助言者
5	9/21	金	父親の役割とその望ましい姿(3)	子供の進路と親のあり方	講義 質疑	県立足利高校教頭 倉沢昭寿
6	10/12	金	差別のない明るい社会をつくるために	人権と私たちのくらし 映画フィルム「若い旅だち」利用	講義 質疑 フィルムフォーラム	北郷公民館長 秋山　稔
7	11/18	日	子供とのふれあいよい子の育て方教えます(2)	山と川で楽しく 父と子の愛のキャッチボール （ハイキング，笹舟作り，魚とり 話し合い，飯盒炊さん）	実習 （親子） 話し合い	北郷公民館職員
8	12/ 5	水	家庭教育のあるべき姿とは 修了式	受験期の家庭環境 （手作夕食でみんな楽しく） 今年度の反省と来年度の抱負を語る	講義 実習 話し合い	市教委社教主事 小高良夫 北中校長 時田　登 地区社教振副委員長

(4) 学習活動において留意した点

- 「足利市の教育目標」と父親学級との関連をはかるため学習活動を展開する中で，その具現化に積極的にとりくんだ。
- 開級時におけるオリエンテーション，仲間づくりのための活動により，以後の学習活動展開の円滑化のためのきっかけづくりをはかった。
- 「家庭教育における父親の悩みと喜び」と題しての懇談会の実施により，相互学習，仲間づくりを推進し，より学習目標に近づくための配慮をした。
- 中学生をもつ親を対象としているので，適時性を留意し，進路について具体的事例をもとに多くのデータを利用しての学習を行った。
- 教育の根底の一つをなす，基本的人権の尊重につき，視聴覚教材を利用して，理解しやすい学習を行った。
- 親子の心のふれあいをはかるため，子どもとともに参加する野外学習を行った。

(5) そ の 他

- 学級開設当初は，受講生間には，家庭教育は母親まかせでなく，両親の責任の時代であり，そのため父親は何をするか，という，父親の役割がまだ明確にもてなかったようである。
- 学習活動を展開する中で，父親としての基本的な役割が認識されてきたように思える。

（課題）

- 未受講の父親に，いかにしてこの学級の存在を知らせ，受講の必要性を認識してもらうか，いわば「学習の大切さ」の啓発の必要性がある。
- 父親学級の必要性をふまえ，形態，内容等を再吟味しながら，継続開設の方向性をさぐってゆくべきである。

（学習場所を公民館外…北中…に求めた理由）

今回の父親学級では，学習場所を公民館でなく，北中学校とした。このことは公民館が地域社会におけるコミュニティセンター，処点としてのとらえ方の中で，単に「場所」的な，いわば物理的条件としての機能だけをもつものでない，という認識に立脚している。公民館は，地域の人びとが具体的に社会教育活動を展開してゆく場であるとともに，人びとへの学習を保障するものでもある。とすれば，その学習の保障は，施設という枠の中だけでなく，より広域的な活動をもあわせて求めてくるのである。いわば，地域の人びとの学習する場所は広く存在するのであるし，そこにはまた，公民館としての機能が向けられるべきなのである。

〔父親学級の例②……北郷公民館〕

1. 学級の形態

(1) 学級の名称　三洋お父さん勉強室（企業内父親学級）

(2) 対　　象　東京三洋電機足利事業所リーダークラブ会員（とくに小学校入学以前の子どもをもつ父親）

(3) 開設の趣旨　現代における日本型親子関係の特徴は父性の欠如にある，といわれている。日頃の親子の語らい，ふれあい等をとおし，互いの理解を深めるために父親として，子どもが何を見，何を考えているのか，今，父親が家庭教育にかかわりをもって学習し，考え，行動する必要がある。そこで「父親の役割」を学ぶ手がかりとして，この学級を開設する。さらに，企業における学級開設により，一層受講者の参加の便宜をはかるために，この学級を開設する。

(4) 開設機関　足利市教育委員会（実施機関…北郷公民館）

(5) 開設期間　昭和59年5月18日～12月14日（5回，各回午後5時15分～6時15分）

(6) 学習場所　東京三洋電機足利事業所大会議室

学級の主たる形態は上記のとおりである。企業内父親学級は初のとりくみとして，本年度市内1学級の開設をみた。本学級の場合，対象を企業内の中堅若手職員としているのは，職員が家庭教育における悩みを学習により解消し，そこに喜びを感じる時仕事に対してのとりくみも充実し，その実績もおのずからあがることも，一つの目的としている。

※昭和59年度三洋お父さん勉強室受講者……129名

2. 学習計画・内容

(1) 学習目標

父親として，乳幼児の心身の発達とそれに伴う保育知識の基礎的修得，および社会連帯感の醸成をはかる。

(2) 「足利市の教育目標」との関連

この学級は，「足利市の教育目標」のうち，つぎの教育目標をめざしている。

＜教育目標番号　42＞

子どもの人格の基本となる望ましい性格を育てる。

（達成目標）

- 子どもの生き方の手本となるような暮らし方ができる。
- 家族は子どもも教育について話し合い，方針や方法について共通理解をもつことができる。
- 一家団らんの機会や話し合う場を意図的に設けてやることができる。

(3) 学習計画の実際

回	月日	曜	学習主題	学習内容	方法	指導者・助言者
1	5/18	金	心豊かな子どもを育てる	情操豊かな，そして創造力豊かな子どもを育てるための親のあり方	講義	元東京都足立区教育長 吉田　司
2	6/15	金	少年非行と父親	少年非行の実態と，そこにみる家庭・親の姿，父親の責任を考える	講義	協和中学校長 佐野守治
3	7/20	金	子育てを考える	市政の責任者として考えている教育，そして家庭教育のあり方	講義 話し合い	足利市長 町田幸久
4	9/21	金	父親	父親とは一体何なのかを再び考え父親像をさぐる	講義	県立博物館学芸部長 尾島利雄
5	12/14	金	子育てと父親	子どもの心の変化に対応した子育てのあり方，そして父親の役割	講義	足利短大教授 清水敦彦

(4) 学習活動において留意した点

- 開設時間を午後5時15分～6時15分とし，勤務終了後ただちに学習開始できるようにした。すなわち，勤務後に帰宅してから再び学級での学習という時間的なロスは解消でき得ると考えた。
- 父親学級の受講により，家庭教育への理解が深まり，家庭内でのさまざまな問題が解決されることにより，充実した職業生活が成立すると考え，受講者自らの職業観を確立するうえで本学級のねらいが有効であるよう，全学習活動において内容的に配慮した。

(5) そ　の　他

（反省点・問題点）

企業内父親学級ということで開設した父親学級としての初の実施であったが，所期の目的は達成できたと思われる。しかし，継続事業として実施してゆくための問題点，会社の業務内容によっては実施期日の大幅な変更がある，回数短縮の要望がある……などの問題点がある。

（課題）

企業内父親学級を定着化した継続学習機会として位置づけるためには，企業主の理解をはじめ，企業内の役員のとりくみ姿勢，リーダーの育成などについて地道な指導が必要であることを，一つの課題として感ずる。

〔乳幼児学級の例…織姫公民館〕

1. 学級の形態

(1) 学級の名称　お母さんの育児教室

(2) 対　　象　市内に住んでいる２才児，３才児をもつ母親

(3) 開設の趣旨　幼児期の人格形成に必要な心身の発達過程の特徴・意義を学習し，基礎的な生活習慣の形成および子どもの自立感の育成・創造性を伸ばすために，親としてどのような心がまえをもつべきか，学習する。

(4) 開設機関　足利市教育委員会（実施機関…織姫公民館）

(5) 開設期間
- ２才児コース　昭和59年５月10日～６月15日（６回）　午後１時30分～３時30分
- ３才児・午前コース　昭和59年９月18日～10月25日（６回）　午前10時～12時
- ３才児・午後コース　昭和59年９月20日～10月27日（６回）　午後１時30分～３時30分

(6) 学習場所　織姫公民館

(7) 協力団体　婦人奉仕活動団体・あしの会・おりひめ会（託児）

以上が学級形態のアウトラインである。「お母さんの育児教室」では，対象となる子どもの年令を焦点化して，学習内容に深みをもたせた。

※受講者　２才児コース…37名，３才児午前コース…20名，３才児午後コース…11名

2. 学習計画・内容

(1) 学習目標

子どもを健やかに育むため，心身の発達過程を理解し，家庭環境や家庭教育のあり方について考え，とくに，乳幼児期の家庭教育における母親の役割を認識する。

(2) 「足利市の教育目標」との関連

この学級は，「足利市の教育目標」のうち，つぎの目標をめざしている。

＜教育目標番号　42＞

子どもの人格の基本となる望ましい性格を育てる。

（達成目標）

- 子どもの行動をとおして主体性を認めてやることができる。
- ものごとを最後までやった結果を見とどけてやり，共に喜んでやることができる。

(3) 学習計画の実際

＜2才児コース＞

No.	期日	学習主題	学習内容	方法	指導者・助言者
1	5/10	開級式・同和教育 育児なんでも相談	同和の歴史と人権教育 グループごとの話し合い・相談	講義 話し合い	織姫公民館長 小泉悦彦 元社教指導員 斎藤ヨシヲ
2	5/17	人間形成 乳幼児の心理	幼児のおしゃべりなどの表現にみられる心の動き	講義 話し合い	前橋育英短大講師 清水知子
3	5/24	人間形成 反抗期とは	自我の芽生えの頃の母親の役割・接し方	講義	佐野厚生総合病院副院長 柿沼利明
4	5/31	健康管理 乳幼児の健康状態	風邪・発熱・予防接種などの病気への具体的な対処法	講義	小児科医師 関口時彦
5	6/ 7	知的発達 ことばの発達と好奇心	ことばを覚える遊び 幼児の動きと好奇心	講義	県神社庁付属八幡台幼児園長 印南政信
6	6/15	親と子のつながり 修了式・反省会	きびしいしつけABC これから10年，長いか，短いか	講義 話し合い	市教委社教主事 小高良夫

＜3才児午前コース＞

No.	期日	学習主題	学習内容		指導者・助言者
1	9/18	開級式 育児なんでも相談	グループごとの話し合いにより相談	話し合い	社会教育指導員 大橋ヨシ子
2	9/25	知的発達 知能とことばの発達	3才児の脳とことばの発達 体験からの育児	講義	明和女子短大講師 本沢和子
3	10/ 2	人権と同和問題 親子レクリエーション	同和の歴史と人権教育 親子で楽しくレクリエーション	講義 実習	織姫公民館長 小泉悦彦 足利レク協会 桧山達夫
4	10/ 9	社会性の発達 遊びと遊び仲間	集団生活の遊び方，遊びからの社会性の発達	講義	小俣幼児生活団主任保母 大川繁子
5	10/16	健康管理 家庭内の病気・ケガの手当	家庭内での応急手当，三角巾，人工呼吸の実習	講義 実習	足利赤十字病院婦長 田谷美智子
6	10/23	ほめ方としかり方 修了式・反省会	ほめ方の方法，しかり方の方法を再考，反省	講義	足利短期大学教授 清水敦彦

＜3才児午後コース＞

No.	期日	学習主題	学習内容		指導者・助言者
1	9/20		3才児午前コースと同じ		
2	9/27				
3	10/ 4				
4	10/11				
5	10/18				
6	10/25				

(4) 学習活動において留意した点

- 対象年令別にコース化し，対象者の子どもの年令層の明確化をはかり，学習者の学習要求に対応した学習課題が焦点化されるよう配慮した。
- 週一回の学習とし，学習期間の短縮をはかり，受講者の参加意欲の保持，出席率の向上につながるよう配慮した。
- 受講者の子どもを，託児ボランティア（あしの会・おりひめ会）に依頼し受講者の学習しやすい環境を作るよう配慮するとともに，子どもたちが，仲間同士のふれ合いにより社会性の発達や，遊びなどの関心が高まるという効果面も意図した。
  （託児ボランティアについては，奉仕活動の一環として位置づけていただくこととし，託児に要する研修も，あわせ行っていただき，団体自身の活動育成の面からも効果があがるように考えた。）

(5) そ の 他

織姫公民館では，家庭教育の充実をめざした学習機会は，小学生をもつ母親を対象とした大橋小家庭教育学級，中学生をもつ母親を対象とした家庭教育セミナー，小学生をもつ父親を対象とした「お父さんの勉強室」，そして，ここにご紹介した「お母さんの育児教室」がある。とくに，「お母さんの育児教室」では，子どもの人間形成上で最も重要な乳児期の子どもをもつ母親を対象としている意味からも，この学級の意義は大きく，今後，この種の学級開設に積極的にとりくむ必要がある。

5. あ と が き

公民館における学習活動を，家庭教育の充実をめざした，家庭教育学級・父親学級・乳幼児学級における3公民館の実践事例をとおしてご紹介した。

公民館の学習活動は，多くその形態として集合学習の形をとっている。しかしながら我々の意図するものは，単に，公民館の提供した学習機会を利用した学習のみにとどまらない。提供された学習の場を一つのきっかけとして，「学ぶこと」を知り，「学んでいる仲間」を知り，より自律的な学習者として育ってゆくことを期待している。まさしく，生涯にわたって学びつづける，「生涯学習者」の育成は，公民館における学習活動の究極のねらいの一つである。

今日，我々に与えられた課題はさまざまなものがある。集合学習の利点，欠点をふまえての新しい課題，すなわち個人学習への援助，学習情報機能の整備に公民館活動としてどのようにアプローチしてゆくべきか，は重要な課題であると思える。住民に潜在する多くの「学んでいる人びと」「学ぼうとしている人びと」に我々はもっと眼を向けるべきなのであろうか。

さらに，「学ぶことの楽しさ，大切さ」に，より多くの人びとに気づいてもらう方策も，具体的な形で提示されなければならない一つの課題でもある。

また，公民館のもつ地域性にも再び着目しなければならない。公民館が地域の人びとのた

めのものであるとするならば，そこでは真の「地域に根ざした公民館活動」が展開されねばならないだろう。

我々は，まず地域を知ることを原点とし，その明確な把握にうらづけされた公民館活動を展開するべきなのかも知れない。

生涯教育の考え方が，多く支持されている理由の一つに，地方の時代の到来という社会の動きがあるように思える。「地方の時代」たるべき地方は，そこに活性化が求められよう。活動する住民，常に学び，考え，行動する住民を育てることは，教育の力によるところが大きい。我々は，このことを深く認識し，より多くの生涯学習者の育成こそ，活力ある地域づくりの原動力であることを明記しなければならないだろう。

本稿を実践事例の紹介のみにとどめることなく，今後の公民館活動のより充実した方向性を確立するための第１歩とし，より確かな実践の道を求めてゆきたい。

（本稿は，１～３・あとがきを清水，４を唯木・植竹・清水の分担執筆とした。）

評

近年，日本人の平均寿命は，年々伸びて昭和57年には，男74.22才，女79.66才に達しました。その結果，最終学校卒業時の平均余命が大きく伸び，中高齢期が長くなりました。また，平均出生児数の減少，核家族化の進行，家事労動の軽減等に伴って，自由時間が大きく増大しました。この長い中高齢期をいかに充実して生きるかということが，今，私たち一人ひとりの大きな課題となっています。

人々は，この長い期間を有意義にすごすために，時代に即応した多様で高度な知識・技術，心の豊かさ，生き甲斐の追求など，生涯の各時期に応じた適切かつ豊かな学習の機会を強く求めています。社会教育では，この人々の多様で高度なニーズに応えていくために様々な事業を展開しています。この事業の推進は，まさに，社会教育における「足利市の教育目標」の具現化にほかなりません。

ここに社会教育推進の中核をなす公民館活動の一端が紹介されました。誠に意義深いものがあります。実践事例では，２・３才～15才までの児童生徒をもつ父母が，健全な我が子を育てるために，「子どもの心身の発達」「親の役割」など親としてのあり方について公民館で学んでいる姿が具体的に紹介されています。今，我が子への関心は，幼少期から知的教育にかたより，「基本的生活習慣のしつけ」「社会性や自制心のかん養」「思いやり」など本来家庭で行うべき役割が果たされているとは言い難い状況にあります。このような中で，親が自発的に学習している姿は，必ずや子どもに良い影響を与えます。

今後，生涯学習への関心が益々高まり，学習活動が一層盛んなることが予測されます。この実践事例が，公民館活動理解のための参考となり，学社連携の一契機となることを期待します。